

勸善 懲惡 讀切講譯

東海道に其名よく響く  
駅路の鈴が木之角前ぐもの  
手の内い通き咲け花川戸  
彼の長き空が食容する  
丸小井筒の紋所羽二重  
さそこの浪人のソコと知して  
權八が廓通ひの闇まごれ  
合手へ誰と見て白刃を  
ためけ一重切り恋慕流のひと  
節をせよ云くもせし  
身の早へ色情と  
邪心の毘異つら  
其谷及瀾の一盛りを  
天鏡いそ照らしむごと  
早く滅せし物語あふ  
戒しり記せあふん

花源堂



平井権八

新編  
讀切講譯

第九一

